

平成25年2月23日発行

マイアミ補習校

校長 永井 晋

事務所 305-406-0050

校長携帯 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail hoshuko@bellsouth.net



補習校だより

平成24年度 第39号

学芸会

校長 永井 晋

先週、学芸会を行いました。この日のために早いクラスでは冬休みから練習を重ねてきました。どの子どもも緊張した顔で本番に臨みました。本校の学芸会は「正しい日本語ではっきりと表現する」「学級のみんなで力を合わせ、堂々と発表する」「他の学級の発表を集中して静かに聞く」ことを目的として、学級での群読を中心に行っています。日本語が第一言語ではない子供も多いので、「正しい日本語」を「堂々と発表」するにはかなりの練習時間と度胸が要ります。



さて、本番はというと・・・。

幼稚部は、自分で考えた言葉を自作のペープサートを使って上手に発表できました。歌も良かったですね。小学部1年生は、「雨」と「飴」など同音異義語をたくさん紹介してくれました。教科書からも「たぬきの糸車」などを発表してくれました。一人の台詞がたくさんあって緊張したと思いますが、みんな上手に発表してくれました。2年生は、「なにご？」ではまるで早口言葉のようなセリフを、そして「スイミー」ではみんなで読んでいのに、一人で読んでいような息のピッタリ合った発表でした。3年生は、落語に挑戦。関西弁や落語独特の言い回しはきっと難しかったと思いますが、上手に発表してくれました。4年生は、手作りのお面をつけて、「茂吉のねこ」を発表してくれました。登場人物の方言の上手さや感情表現が豊かさに驚かされた発表でした。5年生は、「大造じいさんとがん」を一人一人が感情込めて、全員の台詞は息をピッタリ合わせての発表でした。6年生は、「日本の四季」の紹介。文章ではない、「単語」や「詩」など間をそろえて合わせて読むのはとても大変だったでしょう。また、「せんねんまんねん」も息がピッタリでした。中学部1年生は、古文の「竹取物語」。旧仮名遣いの文章を古文の言い回しで読むのは大変だったと思います。最初は意味すら分からなかったと想像できますが、きれいに読んでくれました。中2は、椎名誠さん独特の文章を、一人一人の台詞を交えての群読でした。感情がこもっていて、思わず物語の中に引き込まれてしまいました。最後を務めた中3は、文章も大人が標準的に使うような難しい文章で、内容も素晴らしい内容でした。中3の君たちも、自分の人生をこの文章のように切り拓いていってほしいと思いました。

何より補習校の子どもたちの活躍を見ることができ、大変良い一日でした。

